

会 議 録

1 会議名

平成30年度第1回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項について（公開）

① 平成30年度のスケジュールについて

(2) 自主的審議事項について（公開）

① 分科会

② 全体会

3 開催日時

平成30年4月11日（水）午後6時40分から午後8時40分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第4会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：安樂 大、池杉清子、太田一巳、大竹明德（副会長）、金子隆一
佐藤美奈子、田中幸晴、新野武宣、野澤武憲、藤田晴子、星野 剛
松田光代、吉田幸造（会長）、吉田 実、鷺澤和省（欠席5人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【野口係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉田会長】

- ・会議録の確認：金子委員に依頼
議題「(1)平成30年度のスケジュールについて」、事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・資料No.1により説明

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

【吉田 実委員】

質問ではないが、安全安心グループでは春日地区の危険箇所の指摘と現地視察を行った。次のステップとして地域との懇談を行いたい。現在行っている町内会長との意見交換だけではなく、地域の方々にも呼びかけて参加してもらい、現在の課題に加え、意見交換やディスカッションを行いたい。

安全安心グループだけではなく、他の分科会でも説明や意見交換ができる懇談会をできるだけ早く実施したい。春日謙信交流館で行ってはみてはどうかと考えている。

【吉田会長】

町内会長との意見交換会の開催については、春日地区町内会長協議会に9月か10月に開催したい旨の申し入れをした。

去年は11月7日だったが、もう少し早い時期にお願いしたいと申し入れてある。

【鷺澤委員】

私たち福祉グループでは、「豊かで健康なまちづくり」を実行するために取組んでいるが、現在問題になっているのが、高齢者の「地域支え合い事業」である。

以前は社会福祉協議会（以下、「社協」と言う。）やJAを中心に行っていたものが、地域が分担して行うことになった。現在、社協が担当していた春日区、金谷区、新道区、和田区のうち、春日区以外の3区は具体的に動き出しており、地域の高齢者の引きこもりや様々な問題に対応するべく活動している。しかし、春日区はいまだ行っていないので、後程提案して了承を得られたら地域協議会が後押ししていきたい。

私たちの分科会でも、町内会長、社協、地域包括支援センター、民生委員・児童委員の会合を検討しているため、先ほど吉田委員が言っていたように、必要に応じて私たちの分科会でも提案をしていきたい。

【吉田会長】

取り組み方、進め方は各分科会に任せているが、地域協議会全体として応援すべきことがあれば、その都度協議の上、進めていきたいと思う。

【鷺澤委員】

地域や関係団体との集まりの際には、正副会長に地域協議会の代表として参加してほしい。

【吉田会長】

必要に応じて対応していきたい。

【吉田 実委員】

研修の件だが、現在、自主審議で審議するうえで、各自が勉強し委員自身の資質レベルを上げていかないといけない。そのため、分科会のための研修は3グループに分かれて研修してはどうか。

【吉田会長】

それもよいと思う。

【大竹副会長】

観光グループとしては、今後、分科会単独で教育委員会や文化振興課、観光振興課との話し合いの場を持ちたい。一方、地域協議会として共通の研修会も必要だと思う。

【吉田会長】

ケースバイケースで色々な方向性が出てくると思う。その際は、立ち止まらず話し合って共有し、進めて結論を出していきたい。

次に、資料2の説明をお願いします。

【野口係長】

- ・資料2の説明

【吉田会長】

資料2「分科会のスケジュール」について、質問等はないか。

【吉田 実委員】

事務局に確認だが、資料にあるシートはすべてのテーマをまとめて記入するのか、それともテーマごとに別葉にするのか。

【野口係長】

細かいテーマがある場合は、別葉に記載していただければよい。

【吉田会長】

以上で「(1) 平成30年度のスケジュールについて」を終了する。

次に「(2) 自主的審議事項について」に入る。

— 分科会ごとに自主審議（50分間） —

【吉田会長】

会議を再開する。

「福祉」、「観光」、「安全安心」の順に分科会で話し合った結果を発表していただく。

まず、福祉グループからお願いします。

【佐藤委員】

「あらゆる世代が心豊かに健康で暮らせる春日区」の方策を課題に、主題は「青少年と高齢者をつなぎ、3世代が元気な春日区を目指す」方策の構築を目指すという、大きなテーマの部会のため、平成30年度は関係団体を絞り込み、意見交換会を実施したい。団体から情報収集することで、春日地区に住んでいる方が現在、何を課題として考えているのか、心配ごとは何か、行政に改善してほしいことは何かをおさえないことには大きな課題を解決していくことはできない。広く浅くにはなるが、関係団体とのグループワークを通して、意見や情報を吸い上げたい。6月から7月には出た意見や情報を分類し、7月から8月にはそれを整理・共有する。9月には振り返りと見直しを行い、10月から11月には具体的な審議をしたい。12月以降は審議してきた課題の解決策について、具体的な方向性を次年度に向けて出していきたい。平成31年度は、資料の記載例とほぼ同じ内容で進めていきたい。

【吉田会長】

次に、観光グループにお願いします。

【松田委員】

資料に記載した事項以外にも案は出ているが、まずは資料の記載事項から始めることとした。

「謙信ロード構築とモニュメントの設置」は春日山駅から春日山に向かう道にのぼり旗を設置するあたり、どのように働きかけていくか。また、これまで地域活動支援事業で灯籠^{とうろう}を製作したが、現在の管理の状況が分からないため、情報収集をしていく。

4月から5月には灯籠の情報収集、のぼり旗の設置にあたる。6月までに教育委員会、観光振興課、文化振興課と3回にわけて意見交換会・研修会を実施したい。また、6月までにモニュメントの設置に対して意見交換会や情報収集をし、10月までには「どこ

にどのように設置するか」を決定していきたい。7月には8月の謙信公祭を1か月前から盛り上げるためにのぼり旗を設置できるよう観光振興課に働きかけていく。

「春日山名物のお土産の開発」について、現在“青苧^{あおそ}のパン”と“青苧かまぼこ”が具体的に商品化に向かっているため、8月の謙信公祭には販売できるようにしたい。青苧の効能を知ることで商品開発に役立つと考え、効能の情報と種の収集を4月に行いたい。また、青苧の栽培に関して、あるNPO法人から協力的な意見をいただいているので、今後話を進めていきたい。謙信公祭後の10月以降は「青苧のレシピ開発」を進め、次年度以降につなげていきたい。

次に「体験可能な観光」については“甲冑体験”と“大井戸の水つるべ体験”を考えている。4月から5月に情報収集を行い、教育委員会・観光振興課に対して、埋蔵文化財センターに甲冑体験コーナーを設置する提案を提出したい。また、“大井戸の水つるべ体験”をどのようにすれば実施できるか、5月までに情報収集して検討していきたい。

【吉田会長】

次に、安全安心グループに願います。

【吉田 実委員】

安全安心グループでは「交通危険箇所、交通安全対策」というテーマを中心に活動し、さらに「防犯危険箇所」、「防犯パトロール」も進めていきたい。メインテーマである「交通危険箇所の交通安全対策」は、先日現状把握のために現地視察を行った。資料項目の「情報収集」は4か所をリストアップしているが、地域協議会として、さらに他の情報の洗い出しもしていきたい。町内会長や地域住民との懇談会を実施して、新たな情報を収集した後、現地視察で危険箇所を把握し、優先順位を付けて課題を絞り込み、対策を検討し、平成31年度には意見書を提出できるようにしたい。

次に「防犯パトロール」は、春日山町三丁目のほか、実施している町内からの実施状況・実施結果を収集し、今後の防犯パトロールのあり方ややり方を1月から3月の懇談会の場で表していきたい。

「危険箇所」は、町内ごとに“防犯マップ”にまとめてあるようなので、次のステップとして「交通安全」を考えていきたい。

【吉田会長】

以上で「(2) 自主的審議事項について」を終了する。

次に「(3) その他について」の「(1) 次回開催日と内容」について、事務局に説明

を求める。

【野口係長】

- ・ 次回の協議会：5月8日（火）午後6時から 市民プラザ第4会議室
- ・ 内容：個別質問の確定作業と質問事項の整理作業

なお、話が前後するが、先ほどの各分科会からの報告をお聞きする中で、分科会によってはスケジュールがかなりタイトな部分もあったように感じた。また、市との情報収集・研修会を行う場合には、何を質問するのかなどの整理を今後していただきたい。

【吉田会長】

次に「(2) その他」で何かあるか。

【吉田 実委員】

えちごトキめき鉄道の新駅の設置について、町内会長からも地域協議会で検討してもらえないかとの要望があった。現在、国の事業としてほ場整備の話があり、本当に地域協議会でやらなければいけないのであれば、分科会の活動としてではなく、協議会全体として審議していかなければいけないのかどうかについての話し合いが必要ではないか。その辺の情報は、星野委員が仕事柄詳しいようなので、情報をいただければと思う。

【吉田会長】

星野委員に説明を求める。

【星野委員】

上越教育大学前の山麓線を挟んで東側の農地、大瀬川までがおおよそ30ヘクタール、大瀬川から昭和町までがおおよそ50ヘクタール、合わせて80ヘクタール。さらに山麓線から滝寺までの西側おおよそ20ヘクタールについて、大規模な生産緑地として農地を守る市街化調整区域として、市が線引きをしている。このエリアは積極的にまちづくりをするのではなく、農地を守る地域として市が指定している。最近では農業の担い手不足等があり、国の政策事業として大規模ほ場整備として、例えば板倉区などで飛び飛びの地権者を集約し大規模な農地にするなど、国の補助事業として地権者の負担を、ほぼゼロにして国の税金で整備している。国の補助事業として行った以上、いったん農地として開発してしまうと今後50年100年は宅地にできないし、学校の移転もできなくなる。現時点では市は、農地を守る地域として指定しているので、それを変更する

しかない状況である。

たとえば、上越教育大学前の地区をもう少し学園エリアにするために、附属中学校を大学の近くに移転するには、地元から土地利用の見直しに関する意見を出さない限りは農地のままである。地元住民もどちらが良いのか分からない人、あるいは、いつかは開発して農地になるのではないかと我慢している住民もおり、地元の考えもまとまっていない状況である。しかし、国の大規模整備補助事業は今年度中に結論を出さなければ申請期限が切れてしまうため、今年度中に方針を決めるよう、関川水系土地改良区から地元の農家組合に話が出ている。このため、市の方針が決まったのなら、農地を守る地域であると説明すれば、地元住民の考えもまとまると思う。今年度で補助金制度の期限が切れるので、土地改良区とすれば、平成28年ごろから水路の設計もしているようなので、大規模な補助整備をしたいようだ。

【吉田会長】

市は、そこで農業をしてほしいということか。

【星野委員】

今の上越市の方針は、農地を守る、まちづくりをさせないと線引きをしている区域なので、そういう土地利用になる。

【吉田会長】

我々にできることは何があるのか。

【星野委員】

できるとすれば、地元の意見を聞きまとめて市に意見書を提出することなどが考えられる。

【吉田会長】

今後の地域協議会で町内会長会との意見交換会があるが、それでは遅いのでは。

【鷲澤委員】

我々の協議会でも「学園都市構想」の話が出て、市街化調整区域をやめて附属中学校を移転させるという考えがあり、春日区地域協議会だけではなく、高田区でも附属中学校を移動させて高田公園を整備したいという話も出ている。市長も「上越は教育と城で持っているまちである」と言っており、我々地域協議会としても地域を「学園都市」として献身的に動くために、各団体とタイアップして意見書による要望を今年度中に早急に出す以外はないのではないかと。

【星野委員】

市の縛りを回避するには、農地は県の承認、附属中学校は国立大学法人なので国の承認が必要となり、市だけの話ではない。

知る限りで市のまちづくりの政策の中では、市民交流施設高田公園オーレンプラザと高田本町商店街、直江津の駅前などをリンクさせてまちづくりをしようということだ。

【吉田会長】

概要は分かった。この話は今決める訳にいかないので動きを注視していきたい。

他に「(2) その他」で何かあるか。

(「なし」の声)

【吉田会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。